

8. 住民アンケートの概要

(1) 調査の目的

より良いまちづくりアンケートは、これからのまちづくりの指針となる都市計画マスタープランの策定にあたり、住民の意向や提案が計画に反映されるよう、市民2,000人を対象として調査を実施し、市民ニーズやまちづくりの問題点について把握することを目的としている。

(2) 調査票設計の趣旨

アンケート調査票は、別添資料に示すとおりである。また、調査票設計に関わる設問の意図を整理すると、以下のようになる。

表 1-8-1 設問の意図

はじめに	年齢、職業、居住地区や世帯構成など、対象者の基本的な属性を把握するために設問を行った。
I. 生活環境の満足度と定住意向について	緑の豊かさや市の景観、買い物の利便性など、居住地区や市全体の生活環境に対してどのようなニーズがあるのか、また、まちへの定住意向を把握するために設問を行った。
II. 居住地区の将来像について	市や地区のシンボルとなる「自慢できる将来に伝え、残していきたいもの」と、地区の将来像に対する意向を把握するために設問を行った。また、整備が望まれる施設のニーズや土地利用に対する考え方を把握するために設問を行った。
III. 黒石市の将来像、まちづくりの参加意向について	市における施策や整備の方向性、まちづくりへの住民参加に対する考え方や参加意向を把握するために設問を行った。

(3) 調査対象者及び抽出方法

- 地 域 : 黒石市内
- 調査対象 : 19歳から80歳までの男女(個人)
- 配布数 : 2,000票
- 回収数 : 776票(=回収率 約39%)
- 抽出方法 : 無作為抽出

(4) 調査方法

- 郵送による配布・回収
- 記述式(基本的に選択式)
- 無記名

(5) 実施期間

- 実施時期:平成20年7月1日(配布)~7月22日(回収期限)

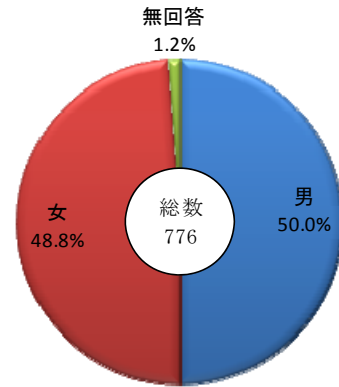
(6) 住民アンケート結果

①回答者の基本属性

< 性別 >

◆男女ほぼ半数ずつ

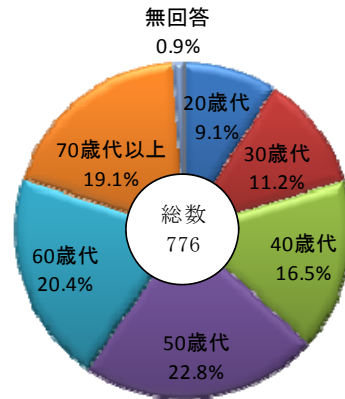
回答者 776 人のうち男性が 50.0%、女性が 48.8%で、男女がほぼ半数ずつとなっている。



< 年齢 >

◆50 歳代以上が全体の 2/3 以上である

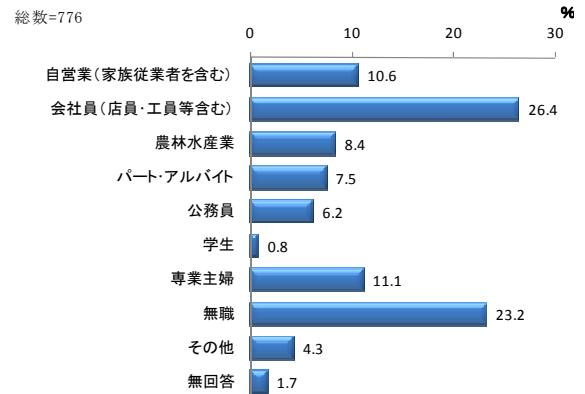
「50 歳代」が 22.8%と最も多く、次いで「60 歳代」(20.4%)、「70 歳以上」(19.1%)である。



< 職業 >

◆「会社員」が最も多い

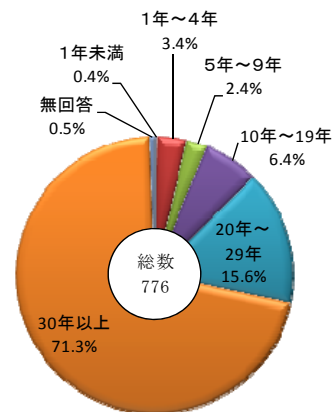
最も回答が多かったのは 26.4%の「会社員」で、「無職」が 23.2%でこれに続いている。50 歳以上の回答者が、全体の約 2/3 を占めたことが大きな要因と考えられる。



< 在住期間 >

◆在住期間 20 年以上が 8 割を超える

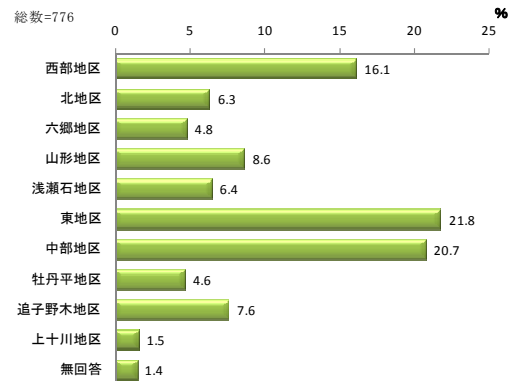
「30 年以上」が 71.3%と他に比べて格段に多い。2 番目に多い「20 年～29 年」の 15.6%と合わせると全体の 8 割以上を占め、在住期間の長い方が多い。



< 居住地区 >

◆「東地区」が最も多い

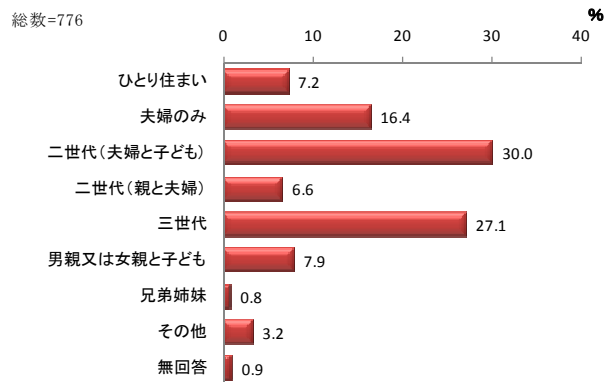
第1位は、「東地区」の21.8%であり、第2位の「中部地区」の20.7%を若干上回っている。第3位は「西部地区」(16.1%)、第4位は「山形地区」(8.6%)、第5位は「追子野木地区」(7.6%)となっている。



< 世帯構成 >

◆「二世帯(夫婦と子ども)」が最も多い

最も回答が多いのは、「二世帯(夫婦と子ども)」の30.0%である。次に多いのは「三世帯」であり、27.1%とこれを若干下回って続いている。第3位は「夫婦のみ」の16.4%、第4位は「男親又は女親と子ども」の7.9%、第5位は「ひとり住まい」の7.2%となっている。

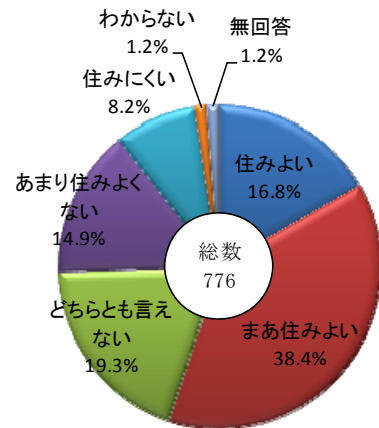


②住み心地

< 住み心地 >

◆約6割は住みよいと回答

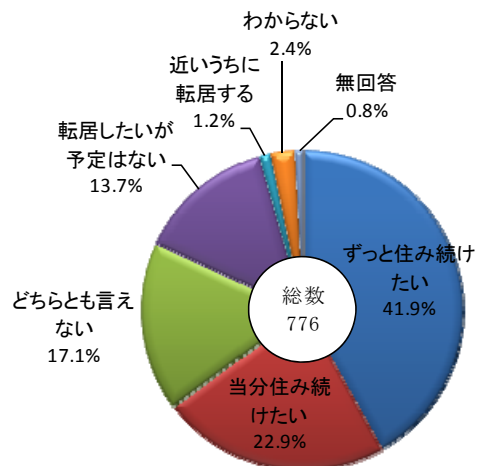
最も回答が多いのは、「まあ住みよい」の38.4%で、「住みよい」の16.8%と合わせて全体の約6割を占めている。「あまり住みよくない」(14.9%)と「住みにくい」(8.2%)では23.1%となり、住みよいと回答した方の半数以下である。



< 居住意向 >

◆6割以上が住み続けたいと回答

回答の第1位は、「ずっと住み続けたい」の41.9%で、「当分住み続けたい」の22.9%を合わせると全体の6割以上を占める。「転居したいが予定はない」(13.7%)と「近いうちに転居する」(1.2%)では約15%となり、住み続けたいと回答した方の1/4弱となっている。



③ 生活行動

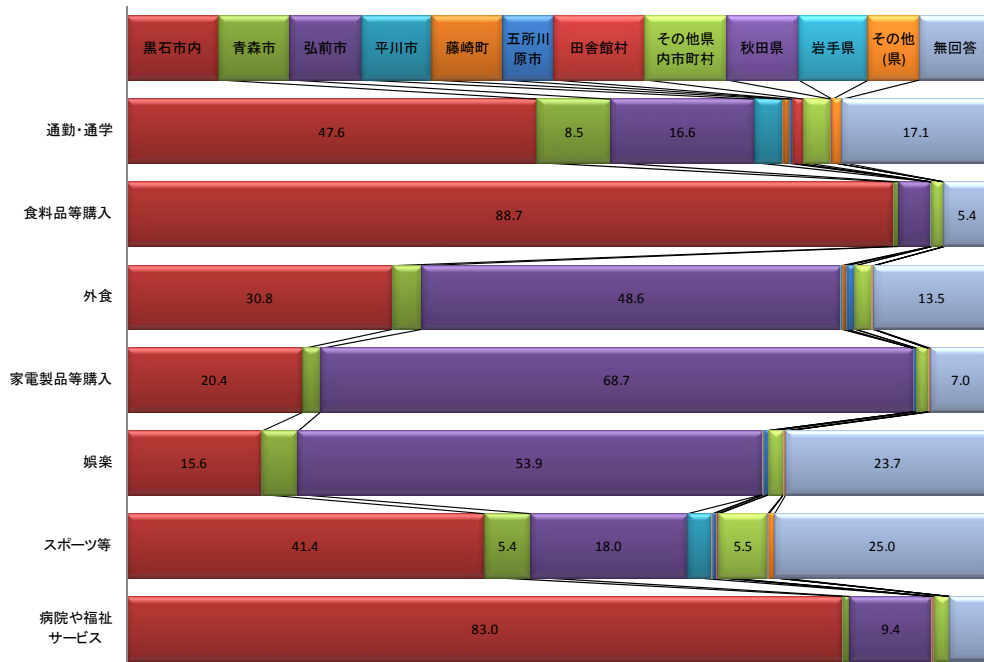
< 日常生活行動(地域) >

◆黒石市内での行動が全体的に多い

通勤・通学、食料品等購入、スポーツ等、病院や福祉サービスは黒石市内が最も多い利用になっている。一方、外食、家電製品等購入、娯楽は弘前市が最も多い結果となった。

総数=776

単位:% (5%未満非表示)



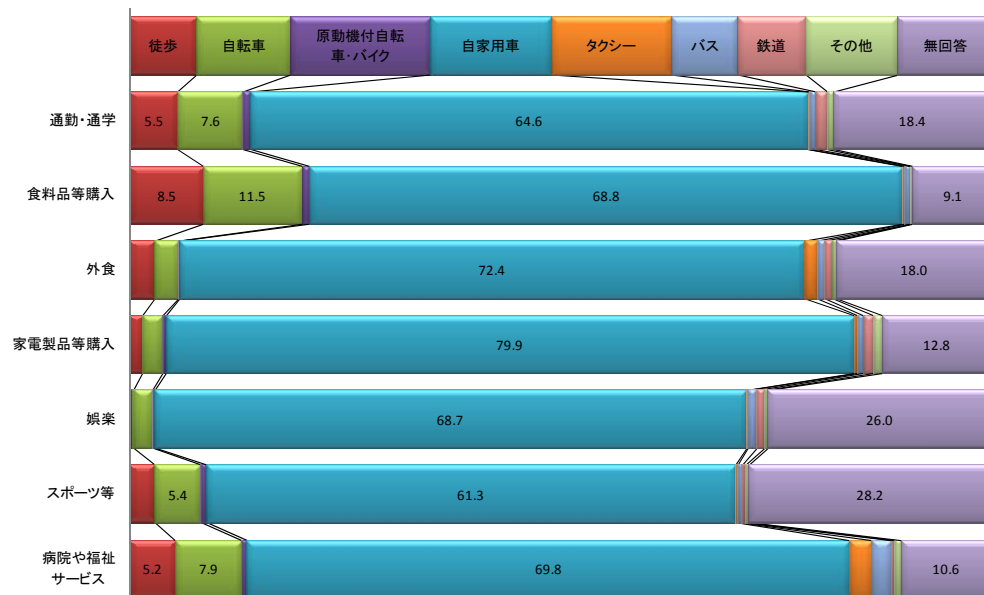
< 日常生活行動(交通手段) >

◆自家用車の利用が圧倒的に多い。

全ての項目において自家用車の利用が最も多い結果となった。そのほかの手段では、自転車、徒歩が多い。

総数=776

単位:% (5%未満非表示)

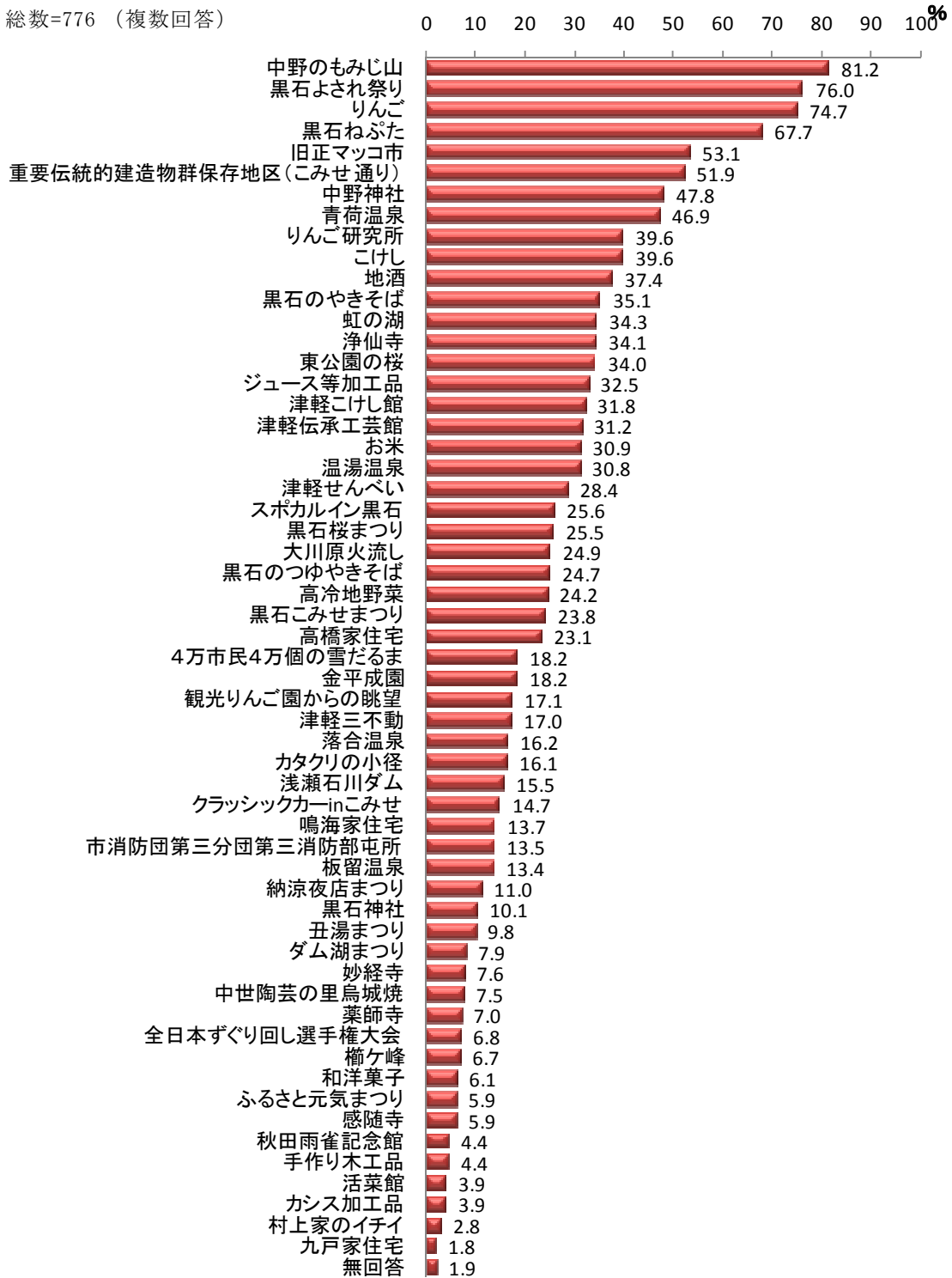


④自慢できる景色や文化

◆「中野もみじ山」が最も自慢できる

最も回答が多いのは、「中野のもみじ山」の81.2%である。次に多いのは「黒石よされ祭り」であり、76.0%とこれをやや下回って続いている。第3位は「りんご」の74.7%、第4位は「黒石ねぶた」の67.7%、第5位は「旧正マッコ市」の53.1%となっている。

総数=776（複数回答）

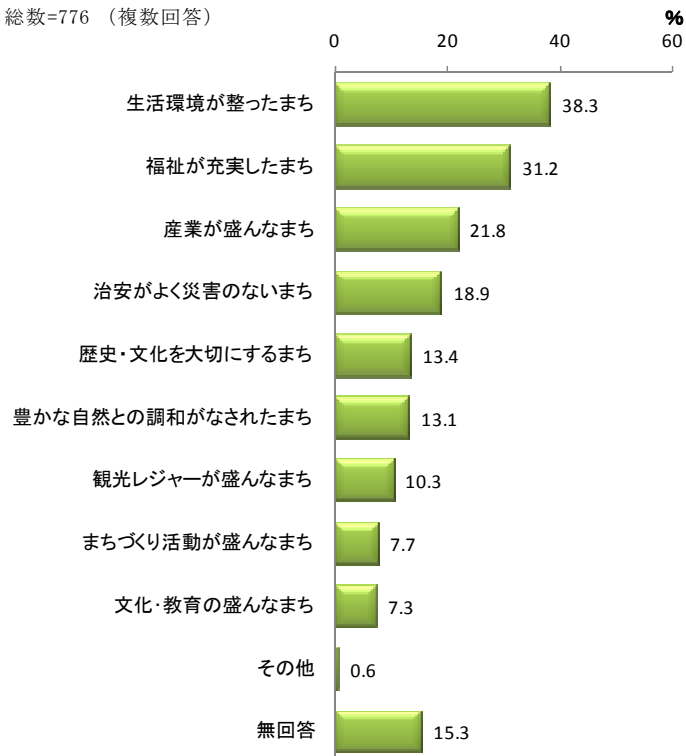


⑤期待するイメージ

◆身近な環境の充実を望む声が多い

回答の第1位は、「生活環境が整ったまち」の38.3%で、第2位の「福祉が充実したまち」の31.2%と合わせ、比較的身近な環境の充実を望む声が多い。第3位は「産業が盛んなまち」(21.8%)、第4位は「治安がよく災害のないまち」(18.9%)、第5位は「歴史・文化を大切にするまち」(13.4%)となっている。

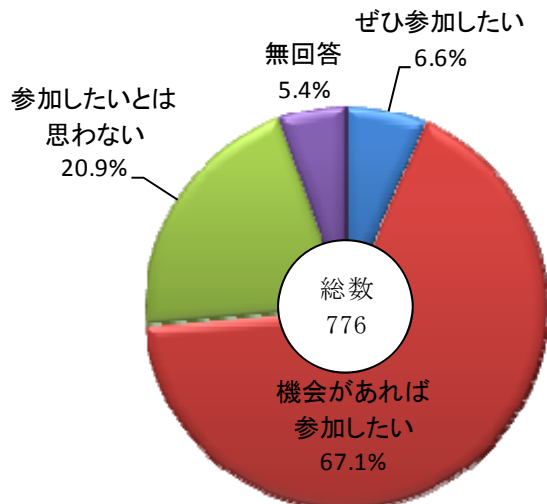
総数=776 (複数回答)



⑥まちづくりに対する参加意向

◆機会があれば参加したいと思っている人が約7割

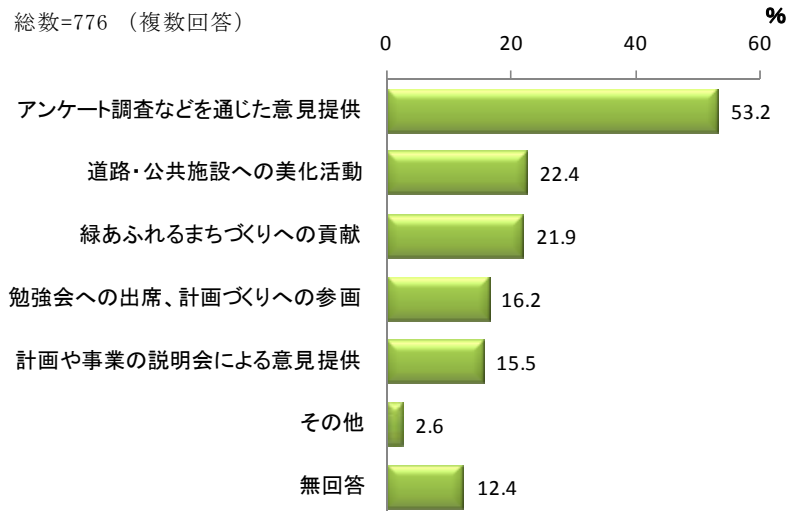
回答の中では、「機会があれば参加したい」が67.1%と、他に比べて格段に多いのが目立っている。2番目に多いのは、「参加したいとは思わない」の20.9%となっている。



⑦まちづくりの行政運営への参加方法

◆アンケート調査などを通じた意見提供が最も多い

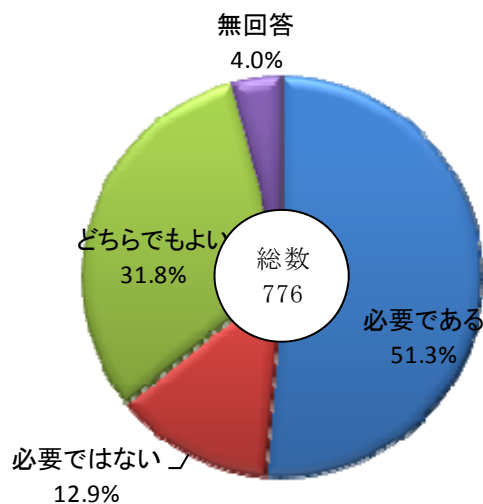
最も多い回答は「アンケート調査などを通じた意見提供」の53.2%で、他の項目の倍以上となっている。第2位は「道路・公共施設への美化活動」(22.4%)、第3位は「緑あふれるまちづくりへの貢献」(21.9%)、第4位は「勉強会への出席、計画づくりへの参画」(16.2%)、第5位は「計画や事業の説明会による意見提供」(15.5%)となっている。比較的負担が少ない形での参加が望まれているといえる。



⑧居住地区のまちづくりルールの必要性

◆「必要である」と答えた人が約半数

最も回答が多いのは、「必要である」の51.3%である。「必要ではない」(12.9%)の4倍以上の回答数であり、一定程度のまちづくりルールが望まれているといえる。



⑨必要とするまちづくりルール

◆「道路・公共施設を計画する時は住民参加で行う」が望まれている

回答の第1位は、「道路・公共施設を計画する時は住民参加で行う」の55.8%であり、第2位の「自然や文化財を指定して守っていく」の39.9%を大きく上回っている。第3位は「ゆとりある街並みとする」(39.7%)、第4位は「緑いっぱいの地区とする」(23.4%)、第5位は「建物の形態やデザインを推奨する」(18.1%)となっている。都市基盤施設や自然・文化財、ゆとりある街並みなど、個別の建物の規制というよりも、全般的なルールづくりが望まれているといえる。

